

	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
10月	1,013	723	712	200	3	2,651	1,150	45	238	188	120	833	5,225
累計	7,721	5,396	5,812	1,089	41	20,059	8,151	299	1,547	1,380	799	6,615	38,850

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

📄 今月のレファレンス記録票から

分類

質問と内容

Z/け 永井荷風がどこの火葬場で茶毘に付されたのかを知りたい。

「朝日新聞」昭和34年5月3日朝刊に「簡素な祭壇 荷風氏の葬儀」という見出しで「葬儀は2日午後1時から市川市八幡の自宅で行われ（中略）遺体は同日お骨にされた」という記事があり、自宅での葬儀の後、同日に火葬場へ行ったことがわかる。また、「朝日新聞」昭和34年5月13日夕刊に「去る30日急死した永井荷風の遺骨は、ふた七日の13日午後零時半（中略）市川から自動車で東京都豊島区雑司ヶ谷都営墓地に向い、永井家の墓地に葬られた」とあり、遺骨が葬儀の11日後に埋葬されたことがわかるが、いずれの新聞記事でも火葬場について言及されていない。

図書では、『永井荷風傳』（秋庭太郎／著 春陽堂 1976）p.548に、「5月2日土曜日午後1時よりの告別式は終つて、荷風の棺は永井永光、大島八重、永井威三郎、永井健、鷺津郁太郎夫妻其他の親戚に加へて相磯凌霜其他の知人数名に附添はれ自動車で市川火葬場に至つた」とある。

この「市川火葬場」について調査を行い、『市川市勢要覧附商工名鑑 1952年』（市川市役所 経済課／編）p.70の「5.火葬場並伝染病院(2)火葬場」の項で、1952（昭和27）年当時、市川市には火葬場が1ヶ所しかなかったことがわかる。同書には火葬場の位置（市川市八幡7-311番地）についての記載はあるが、名称については「火葬場」とあるのみ。また、『市勢概要 昭和39年』（市川市議会事務局 1964）p.43-44にも、1964（昭和39）年の市川市の火葬場事業として、前述の火葬場1ヶ所しか記載されていない。したがって、荷風が逝去した1959（昭和34）年に市川市内にあった火葬場は八幡7-311にあった1ヶ所のみで、『永井荷風傳』でいう「市川火葬場」はここを指していると推察される。

I/C4 市川駅南口再開発の前にあったアーケード街の正式名称を知りたい。


市川市ホームページ(<http://www.city.ichikawa.lg.jp/cit08/1111000003.html> (2019.12.22 確認))によると、市川駅南口地区市街地再開発事業のための調査が開始されたのは1980年。『ゼンリンの住宅地図 市川市 1980』では該当の場所に「南口アーケード街」との記載がある。また、『市川商工名鑑 1982年版』（市川商工会議所 1982）p.434の「商店会」の項にも、「市川駅南口アーケード街」と記載されている。さらに、ゼンリン住宅地図を用いて年度ごとの調査を行い、1988年から1998年までは、「市川駅南口アーケードショッピングセンター」、以降、再開発事業の着工直前にあたる『ゼンリン住宅地図市川市北部（市川・八幡）2003』まで「市川駅南口ショッピングロード」と、数回の名称の変更が確認できた。

188.7 浄土真宗では位牌を使用しないのは何故か。また、位牌の代わりに何を使っているのかを知りたい。

『浄土真宗辞典』（本願寺出版社 2013）p.37「位牌」の項で、「亡くなった人の戒名などを記した札のこと。死者の霊の居所などといわれる。（中略）浄土真宗においては、しょうじょうじゆ 眞実信心を得た者は正定聚に住し現生の命を終えりと直ちに往生成仏するという法義に相応しないものと

される。」とあり、浄土真宗では法義上の理由で位牌が存在しないことがわかる。

さらに、『うちのお寺は浄土真宗』（双葉社 1997）p. 191 には仏壇の^{しほうごん}荘厳（おかざり）のしかたとして、「浄土真宗では本来、位牌を用いる習慣はなく、故人の法名軸を仏壇の左右両側面にかけたり、代々の法名を記載した法名帳（過去帳）を置いたりする」とある。また、同書 p. 195 には、おもな仏具として過去帳が取り上げられており、過去帳のイラストに「大谷派では法名帳という。亡くなった先祖の記録。法名、俗名、死亡年月日、年齢などを記載しておく。」という説明が添えられている。

 **G I V E U P !** ご存知の方はご教授下さい。

I/C2 真間川の「慈眼橋」（八幡6丁目）について、名前の云われを知りたい。

『角川日本地名大辞典 12：千葉県』（角川書店 1984）の p. 1365 で、市川市八幡に^{じげんまゑ}「慈眼前」という小字があることがわかる。小字の場所を特定するために『市川市史 第2巻：古代・中世・近世』（市川市史編纂委員会／編集 市川市 1974）の付録「市川市大字・小字地図」をみると、この小字が「慈眼橋」がある地域とほぼ一致した。

さらに小字「慈眼前」の云われも含め調査をすすめたが、『たくみぼり彙報 第1巻：村の時代 I』（鈴木恒男／著 増訂追補 1994）p. 147 に「富貴川を隔てて慈眼前がある。慈眼は仏様の眼、慈悲をもって衆生を見守る仏菩薩の眼といふことであるが、ここに仏を祀ったところがあったのか、もっと別のジゲンなのか、それ以上には判らない」と記載があるのみで、云われについて確認することはできなかった。

他にもこんな質問ありました（クイック・レファレンスから）

- | 分類 | 質問 | ⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など |
|-------|---|----------------|
| 674.3 | 明治時代に販売されていた化粧品「レートクリーム」の新聞広告が見たい⇒『新聞広告 100年 上』（朝日新聞社／編 朝日新聞社 1978）の索引で、「レート化粧品」が「平尾賛平商店」から発売されていたことがわかる。同書には明治44年（p. 150）、明治45年（p. 155）に掲載された「クレームレート」の新聞広告が掲載されている。『資料が語る近代日本広告史』（大伏肇／著 東京堂出版 1990）の p. 119, 123, 133 でも、大正時代の「クレームレート」の新聞広告がみられる。 | |
| 773 | 能楽「草紙洗小町」のあらすじを知りたい⇒『カラー百科見る・知る・読む能五十番』（小林保治[ほか]／編著 勉誠出版 2013）p. 278 に「草紙洗小町（草紙洗）」のあらすじあり。また、『日本古典文学大系 41：謡曲集 下』（横道万里雄・表章／校注 岩波書店 1977）p. 382 には、宝生流の本文に拠った「草紙洗」がある。 | |
| 913.6 | 石原慎太郎が書いた『一途の横道』という作品が読みたい⇒『やや暴力的に』（石原慎太郎／著 文藝春秋 2014）p. 103 に、連作短篇のひとつとして所収されている。 | |
| K369 | 地震の震度とマグニチュードの違いについて、子どもにもわかるように書かれた本が読みたい⇒『3.11 が教えてくれた防災の本 1：地震』（かもがわ出版 2011）p. 24 に、「マグニチュードは、地震のエネルギー（パワー）の大きさ（地震の規模）をしめす数値で、（中略）震度は、地震のゆれの強さをしめす数値」と記載されている。ほかにも、『いざというとき自分を守る防災の本 1：そのときどうする地震』（防災問題研究会／編 岩崎書店 2019）p. 26 に、図を交えて震度とマグニチュードの違いについての詳細な説明があり、「場所によって震度はちがいますが、マグニチュードは変わりません。」とある。 | |
| K585 | ティッシュペーパーと普通の紙の違いについて書かれている本が読みたい⇒『「紙」の大研究 2：紙とくらし』（樋口清美／構成・文 岩崎書店 2004）p. 15 に紙の分類についての記載があり、紙は大きく「洋紙」と「和紙」に分けられ、「洋紙」は「紙」と「板紙」に分類されることがわかる。さらに、その「紙」を用途ごとに分類すると、ティッシュペーパーは「衛生用紙：液体やよごれをふきとるための紙。吸収性のある紙」となっている。 | |